

生分解性ポットを利用したイチゴの良質苗育成技術

[研究のねらい]

イチゴの生分解性ポット育苗（サブストレートポット、以下 SSP）は、軽量で省力的な育苗方法ですが、慣行のポリポット苗に比べて、培地量が少なく、苗の生育がやや劣る傾向があります。そこで、SSP 育苗において優良苗を育成し収量を確保するための育苗方法を検討します。

[研究の成果]

- ① SSP 育苗での挿し苗法による採苗時期は、5 月下旬から 6 月上旬に行うことで苗の生育が優れ、定植後の収量も慣行ポット育苗と同等に確保できます。採苗時期が 6 月下旬以後になると、苗の生育が劣り、収量が低下します。
- ② 育苗中の灌水方法は厚さ 4mm の吸水性不織布を用い、底面給水方法で行うことで、慣行の頭上灌水方法よりも苗の生育が優れます（図 2、生育データ省略）。
- ③ SSP 苗は花芽分化が早いいため、適期に定植することで慣行のポリポット苗に比べて早期収量が多く、4 月までの総収量はポリポット苗より多くなります（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 挿し苗用の子苗は本葉 2～4 枚とし、育苗中の苗の密度は 30cm×60cm の専用トレイに 15 株程度が適当です。
- ② SSP 育苗での施肥は 5 日に 1 回程度の間隔で液肥を施用します。なお、8 月中下旬から定植までは灌水のみとし、花芽分化促進のための窒素中断処理を行います。



図1 定植時の苗の姿
左：慣行ポット、右：生分解性ポット

表1 イチゴの生分解性ポット(SSP)育苗における採苗時期と定植時の苗のクラウン径と収量

| 育苗方法・ 採苗時期 | 定植時の クラウン径 (mm) | 収量 |
|---------------|-----------------------|----------------|
| | | 12～4月 (g/株) |
| SSP・5/28 | 10.3 | 534.7 |
| SSP・6/10 | 9.3 | 520.8 |
| SSP・6/25 | 8.7 | 496.0 |
| SSP・7/10 | 8.5 | 483.9 |
| SSP・7/25 | 7.1 | 485.3 |
| 9cmポット・6/15 | 10.3 | 539.1 |

注) 品種: さちのか、定植: 9月19日

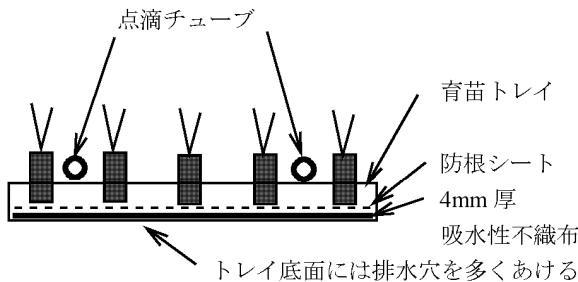


図2 底面給水方法

注) 防根シート上に余剰液が溜まらないように留意する

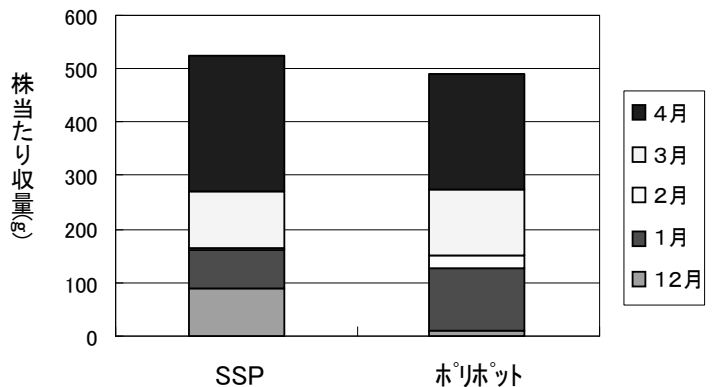


図2 イチゴの育苗方法と月別の収量

注) 定植日: SSP 9月14日、ポリポット 9月22日

実施年度: 平成 14～16 年
担当者: 西森裕夫